

授業科目 音韻障害演習

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	言語
積谷 政代		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】					
器質性構音障害を対象にした言語治療の方法を習得して実践するために、種々の技法を実習する。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】					
鼻咽腔閉鎖機能、器質性構音障害の評価を基にして言語治療計画が立案できる。 代表的な言語治療の技法を模擬的に実施できる。 言語訓練教材を言語症状にあわせて作成できる。 言語治療報告書を用途に応じて作成できる。					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	具体的に口蓋裂症例の言語治療計画を分析する			1	講義
2	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する 口腔内検査法など			2	講義・実習
3	代表的な言語訓練法を模擬的に実施する 構音評価法など			3	講義・実習
4	代表的な言語訓練法を模擬的に実施する 心理面・母親指導など			4	講義・実習
5	言語訓練教材を開発する			5	講義・実習
6	教材を使用して模擬的に構音訓練を実施する			6	講義・実習
7	模擬的に言語訓練の報告書を書く			7	講義・実習
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)		口腔顎顔面領域の異常と言語障害	伊東節子編	医師薬出版	2001年
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 授業態度と実技試験により総合的に評価する		【履修上の留意点】 学生同士の模擬的訓練を行う予定			